

1 単元名 なぜ太宰治は「走れメロス」という題名にしたのだろう
教材名「走れメロス」(東京書籍2年)

2 単元の目標

- (1) 「走れメロス」と「人質」の登場人物の言動や叙述の違いについて関心をもち、表現の違いを理解しようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 登場人物の言動や叙述について考え、文章の展開や表現の仕方との関わりを考えながら内容を理解することができる。
(読むこと①)
書き手の目的や意図について考え、話の展開と表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめることができる。
(読むこと②)
- (3) 抽象的な概念を表す語句、多義的な意味を表す語句に注意して読むことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒に対して、文学的な文章の、「登場人物の言動が、話の展開などにどう関わっているか。」について実態調査を行ったところ、言動と話の展開の関連を理解して捉えている生徒が＊人中＊人、話の展開はある程度理解しているが登場人物の言動がどう関連しているかが分からぬ生徒が＊人であった。このことから、本学級の生徒は、大まかな話の展開はつかむことはできても、登場人物の言動と話の展開を関連づけて考えることに課題があることが分かった。そのため、これからは場面の展開を読むだけでなく、登場人物の言動が話の展開にどのように関わっているか、考えを深めながら読む指導を行っていく必要があると考える。

(2) 言語活動とその特徴

本研究では、「走れメロス」において、粉本の「人質」に太宰が書き加えられた登場人物の言動や叙述を確認した上で、「なぜ太宰治は『走れメロス』という題名にしたのだろう。」という学習課題を設定し、書き加えられた登場人物の言動や叙述について、自分の考えを文章にまとめて交流会を行う言語活動を設定する。

(3) 教材観

本教材は、フリードリヒ・シラーの詩である「人質」を日本語訳したものに基、太宰が加筆などをして作られた小説である。主人公の青年メロスが、自らが治める国の民や家臣を信じることができなくなってしまった王・ディオニスと対峙するところから始まる。メロスの人を信じようとする心と王・ディオニスの人に対する不信は相入れることがなく、メロスは親友であるセリヌンティウスを身代わりに人質としておいてまで王・ディオニスに信実の存するところを証明しようとする。その過程で、メロスはさまざまな障害を乗り越えることで自分の中にあった弱さ、醜さを克服していく、終末では真の「勇者」と呼べる存在として扱われている。親友であるセリヌンティウスに自戒の念を抱かせたのも、王・ディオニスが改心したのも、全てはメロスがさまざまな困難を克服し走り続けたからこそその結果であろう。生徒は、「走れメロス」を読んで素直に感動すると思われる。その中でメロスの超人的な性格の中にも、わたしたちと同じ人間の弱さをもち、また、権力をもっている王・ディオニスにも人間としての悩みや迷いがあることが分かり、物語の世界を現実の世界に置き換えたり、自分のこととして主体的な目で読んだりすることができる教材である。

(4) 指導観

本単元では、まず「走れメロス」の本文を通読した後に、粉本であるフリードリヒ・シラーの「人質」を読むことで、作者が詩を基に「走れメロス」に書き換えたことを知り、生徒が小説における登場人物の言動や叙述の必要性に関心をもつようとする。そして、「なぜ太宰治は『走れメロス』という題名にしたのだろう。」という学習課題を提示した上で、「人質」から書き加えられた登場人物の言動や叙述に目を向け、書き加えられたことで題名が変えられたことなどのような関わりがあるかを考える。その際、場面ごとの視点と登場人物の視点から生徒が考えられるようにすることで、多面的・多角的な視点をもてるようとする。そして、「走れメロス」という題名になったことについて自分の考えをまとめられるようとする。このように、「なぜ太宰治は『走れメロス』という題名にしたのだろう。」から、加えられた登場人物の言動や叙述について考えることで、話の展開をより理解できるようになり読む力を育むことができるであろうと考える。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・「走れメロス」と「人質」の登場人物の言動や叙述の違いについて関心をもち、表現の違いを理解しようとする。	・登場人物の言動や叙述について考え、内容を理解している。 C—イ ・文章の展開と表現の仕方との関わりを考えながら根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 C—ウ	・抽象的な概念を表す語句、多義的な意味を表す語句に注意して読んでいる。 イー（イ）

5 単元の指導計画（7時間扱い）

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準（評価は○）
一	1	<p>人物像を捉えるには、どのような点に注意したらよいだろう。</p> <p>1 文章を読み、登場人物がどのような人物かを考える。</p> <p>2 「解釈する力」を読み、文章の人物像を捉える。</p> <p>3 人物像の多面性について考える。</p> <p>4 人物像を捉えるには、どのようなことが大切かを考える。</p> <p>5 本時を振り返り、言動や叙述に着目する大切さを確認する。</p> <p>「走れメロス」を学習する中で、登場人物の言動や叙述に注意しながら読むようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の人物像は、直接説明されないことが多いので、読み手が能動的に文章を解釈していくことが大切であることを伝える。 ○登場人物がどのような人柄で、どのような考えをもっているかを考えるようにする。 ○人柄や考えから、登場人物の人物像について自分なりの考えをもてるようする。 ○追加された文章から登場人物の人物像を考え、人物像が一面的なものではないことを理解できるようにする。 ○人物像を捉えるには多面的な見方が必要だということを理解する。 ④登場人物の言動や叙述に関心をもち、人物像について考えようとしている。 (発表、ノート)
二	1	<p>「走れメロス」を読んで感想を書き、学習の見通しをもとる。</p> <p>1 作者について紹介する。</p> <p>2 教材文「走れメロス」を読み、初発の感想を書く。</p> <p>3 感想をペアで交流する。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。</p> <p>初発の感想から、物語をどのように捉えたかを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○前時のまとめから単元全体の見通しを確認し、登場人物の言動や叙述に着目しながら作品を読むことができるようする。 ○作者について知り、作品についての興味、関心を高められるようにする。 ○漢語的な表現や難解な語句が多用されているので、注意しながら読むように促す。 ○初発の感想についてペアで交流することで、多様なものの見方や考え方方に気付くことができるようする。 ④漢語的な表現や難解な語句に注意しながら読み、初発の感想を書いている。 (発表、ノート)
三	1	<p>シラーの詩「人質」を読んで、どのような印象を受けるだろうか。</p> <p>1 各自で「人質」を黙読する。</p> <p>2 どのような印象を受けたかをペアで伝え合い、発表する。</p> <p>3 「走れメロス」とどこが違うかを考える。</p> <p>4 疑問に思った点や不思議に思ったことをグループで話し合い、発表する。</p> <p>5 「なぜ太宰治は『走れメロス』という題名にしたのだろう。」という学習課題を提示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「走れメロス」のモチーフとなっている詩の存在を知ることで、生徒の興味や関心を高められるようする。 ○ワークシート①を配り、個人で読むことで自分なりの考えをもつことができるようする。 ○「人質」と「走れメロス」との類似点や相違点について考えるようにする。 ○「人質」が「走れメロス」のモチーフになっていることを伝えることで、どのようなことが加わっているかを意欲的に探せるようする。 ○グループで話し合うことで、生徒の疑問や不思議に思ったことをノートに書き、単元の学習課題に繋がるように工夫する。 ○学習課題を提示することで、意欲的に学習に取り組めるように促す。

	<p>6 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。</p> <p>「人質」は「走れメロス」の基になつた詩で、言動や叙述についての記述が少ない。</p>	<p>④自らの発言を基に単元の学習課題を設定し、主体的に取り組もうとしている。 (関 発表、ノート)</p>
<p>2</p> <p>メロスが走る中盤の場面では、「人質」に比べると、どのように話の展開が変わっているだろうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 中盤の場面を音読する。 2 加えられている言動や叙述について書き出す。 3 加えられた言動や叙述から話の展開がどう変わったかを考え、グループ内で交流する。 4 グループで話し合ったことを黒板に書き、各グループから発表する。 5 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。 <p>「人質」よりも登場人物の描写や叙述がより詳しく書かれていて、話の展開が分かりやすい。</p>	<p>○中盤の場面をいくつかの場面に分けてグループごとに考えることを伝えることで、役割を意識し自ら進んで調べようとする意欲をもたせる。</p> <p>○中盤の場面を四つに分けてグループごとに担当を決め、ワークシート②を配る。</p> <p>○ペアで交互読みすることで、その場面の言動や叙述を再度確認する。</p> <p>○本文とワークシート①の「人質」を比べ、ワークシート②に、加えられた言動や叙述の部分に傍線を引く。</p> <p>○ペアで個人で調べた言動や叙述をお互いに確認する。</p> <p>○場面に加えられた言動や叙述が題名とどう関わっているかを個人で考えた後に、4人グループで検討し、どのような話の展開が加えられたかをホワイトボードに書く。</p> <p>○本文を書いた模造紙とホワイトボードを黒板に張り、加えられた言動や叙述を押された上で、題名とどう関わっているか、各グループから考えを発表する。</p> <p>○ワークシート③に他のグループからの発表を聞いて加えられた言動や叙述がどのように関わっているかを記入し、単元の課題について自分の考えをまとめることができるようする。</p> <p>④話の展開や表現の仕方について、言動や叙述を基にして根拠を明確にして、自分の考えをまとめている。 (読 グループ、ワークシート)</p>	
<p>3</p> <p>冒頭と終末に加えられた言動や叙述は、話の展開にどのように関わっているだろうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 登場人物を絞り、加えられた言動や叙述が題名とどう関わっているかを個人で考える。 2 同じ登場人物について考えた生徒同士で交流する。 3 グループ学習で、担当した登場人物の言動や叙述について、発表する。 	<p>○前時の学習を振り返るとともに、本時では登場人物ごとの言動や叙述についていくことを伝え、学習した内容の繋がりを意識できるようする。</p> <p>○四人グループ内でメロス、セリヌンティウス、ディオニス、民衆の担当に分かれ、ワークシート④に加えられた言動や叙述について、題名とどのように関わっているか、自分の考えを書く。</p> <p>○同じ登場人物について調べた生徒同士で別にグループを作り、加えられた言動や叙述を確認し、情報交換することで、他者の考えを参考にし、自分の考えを深められるようする。</p> <p>○元のグループに戻り、登場人物の言動や叙述についてに発表する。また、ワークシート④にお互いの考えを記入することで、他の生徒が調べた人物について、自分の考えを広げることができるようにする。</p>	

	<p>4 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。</p> <p>冒頭と終末の言動や叙述から、人物の心情や考え方の変化がより捉えやすくなっている。</p>	<p>○文章の展開や表現の仕方について、根拠を明確にして、自分の考えをまとめている。 (読 グループ、ワークシート)</p>
4	<p>なぜ太宰治は「走れメロス」という題名にしたのだろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「人質」の詩と「走れメロス」を再度默読する。 加えられた言動や叙述について学習したことをペアで確認する。 既習事項を基に、登場人物の言動や叙述が題名とどう関わっているかをまとめる。 「走れメロス」という題名になったことについて、自分の考えを文章で書く準備をする。 <p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。</p> <p>各自で考えた文章を基に、「走れメロス」という題名について考えを書く。</p>	<p>○これまでに学習したことをついて自分の考えをまとめるにあたり、単元の学習課題を提示することで、本時で行う活動への意欲付けを図る。</p> <p>○「人質」と「走れメロス」の違いを再確認するため、読み直しをする。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、題名が変えられたことについて場面の展開や人物の叙述について整理し、自分の考えを書く。</p> <p>○登場人物の言動や叙述について、これまでのワークシートを見直し、学習内容を整理する。</p> <p>○なぜ「走れメロス」という題名にしたのかを考えるために、加えられた言動や叙述についてどのように題名に関わっているかを考える。</p> <p>○これまでの学習から登場人物の言動や叙述を選び、それを選んだ理由を書くとともに、話の展開を捉えた上で題名との関わりをについて自分の考えを書くことができるようとする。</p> <p>○言動や叙述について、理由を明確にして、自分の考えをまとめている。 (読 ノート)</p>
四 1	<p>登場人物の言動や叙述を基に、「走れメロス」について自分の考えを書こう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分の考えを書く際の条件を確認する。 「走れメロス」について、言動や叙述が題名とどのように関わっているか自分の考えを文章にする。 4人グループで考えを発表し、交流する。 <p>4 グループから発表者を1名選び、学級全体に発表する。</p> <p>5 これまでの学習を振り返り、作品について思ったことや感じたことを書く。</p> <p>自分の考えをもつとともに、他者の考えを知ることで、「走れメロス」の内容をより理解できるようにする。</p>	<p>○単元の最後に自分の考えと他者の考えを交流することで、多様な見方や考え方につれて触れる機会を作る。</p> <p>○作文の条件を確認することで、課題について意欲的に取り組めるようとする。</p> <p>○前時の学習をもとに、原稿用紙に条件に従って四百字程度で書く。</p> <p>○お互いに考えた文章を読み合うことで新たな視点で物語を考えられるようにするとともに、自分の考えと同じ点や相違点に着目できるように促す。</p> <p>○教科書のどのページにあるかを発表の前に伝えることで、他の生徒がその言動や叙述に着目できるようにする。</p> <p>○グループ内だけでなく、より多くの考えを聞くことができるよう他のグループの生徒の発表を聞く機会を作る。</p> <p>○学習を振り返ることで、単元で学んだことを再確認し、今後の学習に生かしていくようにする。</p> <p>○書き手の目的や意図について考え、話の展開と表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめ、文章を書いている。 (読 ノート、原稿用紙)</p>

6 本時の指導

(1) 目標

登場人物の言動の叙述について考え、話の展開にどのように関わっているか考えをもつことができる。

(2) 準備・資料

シラーの詩「人質」全文プリント、ワークシート④（個別学習）

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div data-bbox="171 534 774 646" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>冒頭と終末に加えられた言動や叙述は、話の展開にどのように関わっているのだろうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、本時の学習への繋がりを意識できるようにする。 冒頭と終末の登場人物の言動や叙述がどのように変わったかに着目することで、新たな視点で作品を見るができるようにする。
<p>2 学習の進め方を黒板に提示する。</p> <div data-bbox="208 698 747 871" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>個別 →グループA（同じ登場人物） →グループB（分担した登場人物） →個別</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 個別学習やグループ学習の時間について本時の学習の流れを確認することで、学習の見通しをもてるようする。 本時の学習課題に加え、「なぜ太宰治は『走れメロス』という題名にしたのだろう。」という单元の課題も掲示し、意識しながら学習できるようする。
<p>3 課題に取り組む。</p> <p>(1) 登場人物を分担する。</p> <p>ア メロス イ セリヌンティウス ウ ディオニス エ シラクスの民（民衆）</p> <p>(2) 冒頭と終末に加えられている言動叙述を書き出す。</p> <p>(3) 同じ登場人物について調べた生徒同士で言動や叙述について発表交流する。</p> <p>＜グループA＞ ア メロス班 イ セリヌンティウス班 ウ ディオニス班 エ シラクスの民（民衆）班</p> <p>(4) 分担した登場人物について発表し、交流する。</p> <p>＜グループB＞ ・メロス、セリヌンティウス、ディオニス、民衆を担当した生徒4人一組でグループを作る。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 四人グループの中で、誰について調べるかを決めることでグループ内での役割意識を持たせ、意欲的に学習に取り組めるようする。 個別の学習で登場人物を絞ることで、その登場人物の加えられた言動や叙述に焦点を絞って考えられるようする。 「人質」の全文プリントと「走れメロス」の本文を比べることで、どのような言動や叙述が加わっているかを書き出す。 言動や叙述を見付けることにつまずきのある生徒には個別に対応し、教師が本文に加わっている言動や叙述をいくつか示すことで、個別学習への足がかりとする。 冒頭から終末にかけての登場人物の言動や叙述についてどのような語句が加えられたのかをワークシート④に記入する。 同じ登場人物について調べるグループAで、どのような言動や叙述に着目したかを発表することで、自分の考えの参考にできるようする。 加えられた言動や叙述を基に、話の展開にどう関わっているか自分の考えを書く。 グループBで、担当した登場人物に関して加えられた言動や叙述について伝え、それが話の展開にどう関わっているかを発表する。 他の生徒の発表については、発言を肯定的に受け入れるように促す。 自分の考えに他の生徒の考えを含めて考えることで、冒頭と終末の場面について登場人物の心情の変化を知り、話の展開について考えを広げたり深めたりできるようする。 <p>④登場人物の言動や叙述について考え、話の展開にどう関わっているか考えをもつている。 (読) ワークシート、交流)</p>
<p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ太宰治は『走れメロス』という題名にしたのだろう。」ということについて、本時の学習での自分なりの考えをもつことで次時の学習への意欲付けを図る。